



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

災害から皆さまのいのちを守るために

第1回ノーベル平和賞受賞者が、赤十字の創始者アンリー・デュナンであることをご存じでしょうか。

赤十字は、この1人の若いスイス人が戦場で感じた「人を人として救いたい」という熱い思いを実現するために、1863年に誕生しました。その思いはやがて、紛争の犠牲者だけではなく、自然災害や日頃から病や障がい等で苦しんでいる人々にまで向けられ、赤十字は今では世界190か国で様々な活動をしています。

私たち日本赤十字社も、全国に展開する支部、病院、血液センター、奉仕団等のネットワークを通じて、「人々のいのちと健康を守る」ため、日々皆さまの身近で活動しています。

災害に備えては、いざという時に住民同士が助け合えるように救急法や防災・減災の講習を行い、子どもたちには学校で防災教育を広めています。各地の赤十字病院は、信頼される医療の提供に日々努めるとともに、医師や看護師が研修や訓練を重ねて、有事に備えています。また、全国で様々な活動を展開している赤十字のボランティアや奉仕団は、災害時には被災者により近く寄り添っていくことを心掛けています。

昨年、日本赤十字社は、関東・東北豪雨をはじめとする3件の主な災害に対し、22の救護班やこころのケアチーム、災害医療コーディネートチームの派遣、救援物資の配布を行いました。また、これらの災害の救援のためにお預かりした14億円以上（平成28年2月現在）の義援金は、被災地の配分委員会を通じて被災者に届けられております。一方、ネパールやシリア等海外の災害や紛争の救援のためにも、11か国への人材の派遣を含め、総額12億8,300万円相当の支援を行いました。

このような活動を効果的に行うことが出来たのは、皆さまの温かいご支援があったからです。

赤十字は、災害であれ紛争であれ、苦しんでいる人がいれば、国籍や人種、宗教等に関わらず、中立・公平の立場で、そして、ボランティアの精神で救いたいと考え、行動してきました。私たちは、その思いを共有し、実現するための一助となったださる方が一人でも多く増えることを願っております。

毎年、赤十字とゆかりの深い5月を「赤十字運動月間」として、活動への一段のご理解やご支援を呼びかけています。ご協力をよろしく願います。

平成28年 月

日本赤十字社 社長

近衛忠輝